

授業科目名 (英文表記)	アメリカ政治経済 (American Politics and Economy)		
単位数	2	授業形態	演習
担当教員	藤木 剛康		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間 90分×15回	第1回 10月4日(金) 19:30~21:00	第6回 11月8日(金) 19:30~21:00	第11回 12月13日(金) 19:30~21:00
	第2回 10月11日(金) 19:30~21:00	第7回 11月15日(金) 19:30~21:00	第12回 12月20日(金) 19:30~21:00
	第3回 10月18日(金) 19:30~21:00	第8回 11月22日(金) 19:30~21:00	第13回 12月27日(金) 19:30~21:00
	第4回 10月25日(金) 19:30~21:00	第9回 11月29日(金) 19:30~21:00	第14回 1月10日(金) 19:30~21:00
	第5回 11月1日(金) 19:30~21:00	第10回 12月6日(金) 19:30~21:00	第15回 1月24日(金) 19:30~21:00
<b>【授業の概要・ねらい】</b>			
<p>第2次大戦後のアメリカは、「丘の上の町」、すなわち、自由や民主主義、市場経済といった理想を掲げ、それらを世界に広めていく特別な立場にあると自任してきた国だった。しかし、トランプ政権の登場後、これまでは自明とされてきた自由民主主義体制や自由主義的国際秩序といった理念そのものに疑問符がつけられるようになってきている。では、なぜ、これらの理念や体制がこれほどまでにほころびてしまったのだろうか。その原因や背景、打開策や展望について、世界の知識人の間ではどのような議論がなされているのだろうか。</p> <p>この講義では、上記のテーマにかかわる複数のテキストを取り上げて議論し、個々の論者の議論を体系的に理解するだけでなく、同じテーマに関する異なる論者の議論を関連づけて検討し、そのテーマについて多面的に議論できるようになることをめざす。具体的には、テキスト候補の中から各参加者が1冊選び、報告の順番を決め、毎回1冊ずつ、①担当者によるプレゼンテーション(概要報告とコメント)、②教員による論点提起とコメント、③それらに基づく参加者全員での議論、を行う。各参加者は、報告されたテキストから3冊を選び、3本の短評を作成した後、最終的にそれら3本の短評をまとめた書評を作成してもらう。</p>			
<b>【授業計画】</b>			
第1回	オリエンテーション。演習の進め方と書評の書き方。	予習：読書課題。復習：読書課題。	
第2回	アメリカ政治経済事情についての概説。	予習：読書課題。復習：読書課題。	
第3回	水島治郎『ポピュリズム』(中公新書)	予習：読書課題。復習：短評作成。	
第4回	マイケル・ウォルフ『炎と怒り〜トランプ政権の内幕』(早川書房)	予習：読書課題。復習：短評作成。	
第5回	マーク・リラ『リベラル再生宣言』(早川書房)	予習：読書課題。復習：短評作成。	
第6回	ジョーン・C・ウィリアムズ『アメリカを動かす「ホワイト・ワーキング・クラス」という人々』(集英社)	予習：読書課題。復習：短評作成。	
第7回	ピーター・ドラッカー『ポスト資本主義社会』(ダイヤモンド社)	予習：読書課題。復習：短評作成。	
第8回	会田弘継『破綻するアメリカ』(岩波書店)	予習：読書課題。復習：短評作成。	
第9回	スティーブン・レビツキーほか『民主主義の死に方』(新潮社)	予習：読書課題。復習：短評作成。	
第10回	ブックトーク I	予習：書評作成。復習：書評手直し	
第11回	ニール・ファーガソンほか『リベラル vs. 力の政治』東洋経済新報社		
第12回	アaron・L・フリードバーグ『権威主義諸国の挑戦〜中国、ロシアとリベラルな国際秩序への脅威』 <a href="https://www.spf.org/pdf/The_Authoritarian_Challenge_jp.pdf">https://www.spf.org/pdf/The_Authoritarian_Challenge_jp.pdf</a>	予習：読書課題。復習：短評作成。	
第13回	グレアム・アリソン『米中戦争前夜』(ダイヤモンド社)	予習：読書課題。復習：短評作成。	
第14回	ピーター・ナヴァロ『米中もし戦わば』(文藝春秋)	予習：読書課題。復習：短評作成。	
第15回	ブックトーク II	予習：書評作成。復習：書評手直し。	
<b>【到達目標】</b>			
<p>今日における自由民主主義体制、自由主義的国際秩序をめぐる論争の概要を理解し、自分の言葉でわかりやすく説明し、自分の意見を述べられるようになること。本の紹介や書評の作成方法については最初に説明し、教員が実際に見本を提示する。チャレンジングな課題だが、できる限り受講生が課題に円滑に取り組めるように指導法を工夫する。</p>			
<b>【成績評価方法】</b>			
<p>プレゼンテーション(15%)と毎回の議論への参加態度(40%)、600~1000字程度の短評3本(10%ずつ)と、それら3本をまとめた2000字以上の書評1本(15%)。</p>			
<b>【教科書】</b>			
<p>前期終了時に正式な教科書のリストを発表する。参加希望者はそれらを各自で入手し、読み進めておいてください。このシラバスの授業計画は現時点での提案である。</p>			
<b>【参考書・参考文献】</b>			
<p>河音琢郎・藤木剛康『オバマ政権の経済政策』(ミネルヴァ書房)</p>			
<b>【履修上の注意・メッセージ】</b>			
<p>アメリカの政治経済事情に関する日々のニュースだけではなく、『中央公論』や『ニューズウィーク』などの論壇誌、オンラインジャーナルなどにも目を通してもらいたい。これらの論壇誌についても演習中に紹介する。</p>			
<b>【授業時間外学習についての指示】</b>			
<p>本授業の授業計画に沿って、各回の予習と復習を行ってください。 具体的にはオリエンテーションの際に説明します。</p>			